

要旨

本研究では大腸内視鏡の挿入性及び診断能に関して、5591 症例の解析を行った。挿入性の指標として盲腸到達率を検討した結果、盲腸到達率の向上に関連する因子として、男性、鎮痙剤の使用、大腸内視鏡先端フードの使用、良好な腸管洗浄の項目が示された。一方、経験検査数が 3000 件未満での初級者における盲腸到達率の向上に関する因子としては、上記の項目以外に若年、BMI が高い群が示された。また、診断能の指標として、大腸ポリープ発見率の検討を行った結果、大腸ポリープ発見率の向上に関連する因子として、男性、高齢、BMI が高い群、良好な腸管洗浄の項目が示された。